

柚子の木だより

豊島区適応指導教室
令和7年12月4日
No62

性善説・性悪説

皆さんは、「性善説」「性悪説」という言葉を聞いたことがあるでしょうか。今は、性善説は「人は正しい考え（善）を持って生まれてきて正しい行動をする」



で、性悪説は「人は間違った考え（悪）を持って生まれてきて間違った行動をする」というふう

に捉えられています。本来の意味とは異なります。

性善説は、古代中国の思想家である「孟子」が言ったことで、本来の意味は「人間は正しいことを行う心を持って生まれてくるが、成長の過程で悪い行為を身に付けていく」という考え方で、性悪説は、同じく古代中国の思想家である「荀子」が言ったことで「人間の本性は悪であり、教育や努力によって正しい行いを身に付ける」という考え方を言いました。

つまり、「生まれたときは純粋で天使のような心であるが、成長するにつれて悪いこと学んでしまう」のが性善説で、「生まれたときは悪で悪魔のようだが、教育によって正しい行動を身に付けていく」というのが性悪説です。

どちらが正しいのか知るすべはありませんが、私は、人間は生まれた時は、善も悪もなく純真無垢だと思っています。その純真無垢の赤ちゃんに、性格などの個性を与えるのは、その子の周りにいる人々だと思っています。もちろん遺伝等の多少の影響はあるかもしれませんが、その子の個性を決めるのは、その子の育った環境だったり、出来事だったり、関わった人たちだと思うのです。さらに言えば、その個性は、毎日の様々な人との関わりや、出来事で変化し続けるのです。



とはいえ、あえてどちらかを言われたら性善説を取りたいと思っています。さらに、日本は性善説を前提に社会を作っているんじゃないかなと思っています。たとえば、日本ではよく見かける、無人野菜売り場は、お金を払わずに野菜を持っていく人はいないだろうという前提

で成りたっています。実際に表示された金額のお金を払って野菜を持っていきます（最近はお金を払わず野菜を持っていく人が増えてきたとも聞きますが）。

性善説も性悪説も、人間として生まれた時のスタートの考え方は異なりますが、成長する中で色々なことを身に付けていくということに違いはありません。そうしたことを考えると、その時々での出会いや体験が自分を成長させてくれるのです。皆さんもこれから生きていく中で、たくさんの人と出会って、関わって、そして様々な経験をしたいと思います。出会いは偶然なので選ぶことはできません。悪い出会いもあるかもしれませんが、たとえ悪い出会いであったとしても自分を成長させてくれることには変わりはありませんが、できれば悪い出会いより良い出会いをたくさんして欲しいと思います。



調理実習(スコーン作り)体験記

調理実習当日、自分は今日それがあることをすっかり忘れていた。さらに、柚子に行くかどうかさえ迷っていた。あの時「行く」を選択して本当に良かった。スポーツの後、調理実習が始まった。ボウルと材料が配られた。まずは、ホットケーキミックスとバターを混ぜる。混ぜたら牛乳を入れてさらに混ぜると、しだいに生地になる。そこにチョコチップを入れ、形を整えオーブンで焼くと完成。自分と同じ机でやっていたK君が疑ったのは、形を整える部分であった。ここで自分は悪戦苦闘。パッと思いついたのは、ハート型や星型だったが、それでは面白くない。絶対に作る人が居るだろう。それで思いついたのが、Appleのロゴを作ることにした。だがロゴは単色だ。それで先生に提案されたのが、チョコチップを外すこと。それなら模様も増やせるなと思い決行。Appleの形を作った。次に作るものを悩んでいると、先生にAppleときたらMicrosoftじゃないと言われた。それなら他の人と差別化もできると思い実行した。〈小6男子〉



